

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和6年度技術情報第23号（バレイショの疫病）について（送付）



ジャガイモ疫病について、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujosh/index.html>）にも掲載しています。

令和6年度 技術情報第23号

奄美地域（沖永良部）のバレイショの疫病の発生が多くなっており、降雨等で急激に発生することが懸念されるため、下記5の防除対策を徹底してください。

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1 対象病害虫 | 疫病 |
| 2 対象作物 | バレイショ |
| 3 発生地域および発生量 | 奄美地域 多
熊毛地域 やや少 |

4 発生状況

12月中旬の調査で奄美地域（和泊町）では発生ほ場率は42%（平成8%）と高く（図1）、熊毛地域（西之表市）では発生を認めなかった（図2）。

両地域とも例年1月から2月にかけて発生が多くなることから（図1、2）、発生前の予防が重要である。

5 防除上注意すべき事項

葉での病徴は、下葉に暗緑色の斑点を生じて次第に拡大し（図3）、葉裏面の健全部に接して霜のようなかびを生ずる。収穫期に雨が多いと菌が塊茎（イモ）に侵入し、感染した塊茎は腐敗する。原因菌は降雨で孢子が飛散し、感染は数時間で完了する。好条件下では数日で感染・発病を繰り返す、急激にはほ場全体にまん延するので、以下の防除対策に努める。

- すでに発生しているほ場では、表1を参考に、BまたはDグループの農薬を直ちに散布する。雨が続くと予想される場合には5～7日おきに連続散布し、徹底した防除を行う。
- 未発生ほ場では、Aグループの農薬を発生前に必ず散布し、予防に努めることが重要である。その後は2週間間隔で散布する（図4、表1）。
- 排水の悪いほ場では多発しやすいので、排水対策を十分に行う。
- 収穫残さは次作の伝染源となるため、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。

6 参考データ

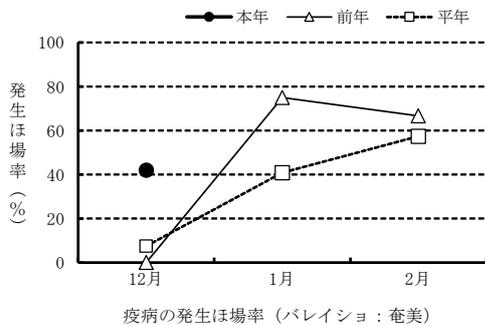


図1 疫病の発生ほ場率の推移（奄美地域）

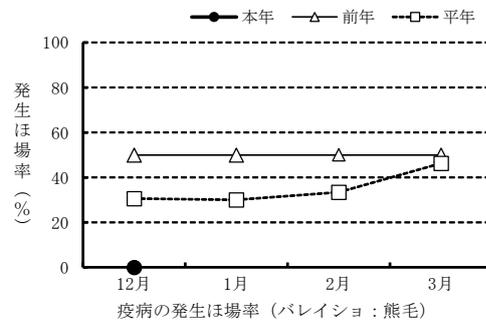


図2 疫病の発生ほ場率の推移（熊毛地域）



図3 バレイショでの疫病の病徴

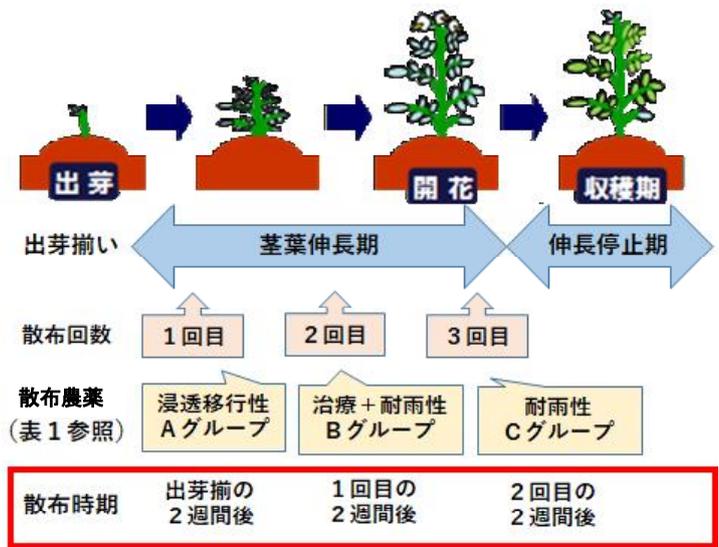


図4 疫病の防除体系 (例)

表1 疫病防除体系の農薬

令和6年12月23日現在

グループ	特徴	主な農薬名
Aグループ	茎葉伸長期に散布後伸長した農薬 未付着部位へ成分が浸透移行する農薬	ゾーベックエンカンティアSE ゾーベックエンテクタSE フォリオゴールド リドミルゴールドMZ
Bグループ	疫病発生時に対応可能で14日間の長期 残効が期待できる治療的効果と耐雨性 が高い農薬	カンパネラ/ベネセット水和剤 ザンプロDMフロアブル ダイナモ顆粒水和剤 ブリザード水和剤 プロポーズ顆粒水和剤 ホライズンドライフロアブル リライアブルフロアブル
Cグループ	茎葉伸長がほぼ停止する時期に仕上げ 剤として長期残効が期待できる耐雨性 が高い農薬	エトフィンフロアブル ジマンダイセン水和剤 ダコニール1000 フロンサイドSC ライメイフロアブル ランマンフロアブル レーバスフロアブル
Dグループ	例年よりも降雨が多いなどの天候不順 時に上記防除体系で疫病の発生を抑制 できない場合にスポット的に使用する 治療的効果の高い農薬	エキナイン顆粒水和剤 ベトファイター顆粒水和剤